

「口腔内における力について」

むし歯や歯周病といった感染による疾患に関しては、その原因や治療法、予防法までかなり明らかになってきています。一方、力の問題については、その実態が目に見えず、たいへん難しい問題とされています。

また、力が大きいからといって、必ずしも問題があるわけでもありません。

口腔内における「力」とは？

歯や歯周組織に加わる力には、主に機能運動によるものと非機能運動によるものとに分けられます。

機能運動とは、咀嚼・嚥下・発音をさし、日常生活において不可欠とされるものです。対して、非機能運動とはどうしても必要というわけではないのですが、習慣・習癖になっているもの（歯ぎしりなど）をさします。

この力と、歯や歯周組織などの力を受ける側とのバランスが崩れてしまうと、何らかの問題が起きることがあります。

受ける側の問題として、根が短い、中等度以上の歯周病に罹患している、欠損歯が多い、歯列不正がある・・・などはこのバランスを崩す要因となります。

どんな症状があるの？

- ・痛い、歯がグラグラする。
- ・歯が磨り減っている。歯のかみ合わせの面がツルツルしている。
- ・歯と歯ぐきのきわが欠けている。詰め物や白いかぶせのきわが欠けている。
- ・歯が割れた、歯が動いた。
- ・顎の骨の隆起が著明。

・・・など

上述したものは、比較的患者さんご本人にも分かりやすいものです。その他レントゲンや口腔粘膜にも特徴的な所見が認められることがあります。

これらの症状すべてが力によるものとは限りません。また、強い力があってもすべてトラブルを起こすものとも限りません。

私たちは、患者さんの治療やメンテナンスを通して、この目に見えない力の問題を察知できるよう努力したいと思えます。